

2007 年度病院患者図書館設置状況調査 - 100 床以上の病院における読書環境 -

(研究課題番号 19500204)

「治療の一助としての病院患者図書館の可能性と普及への総合研究」

平成 19 年度～平成 20 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 研究成果中間報告書

平成 20 年 3 月
研究代表者 前田稔
(東京学芸大学総合教育科学系)

はじめに

病院患者図書館とは、患者対象の図書を中心とした院内情報提供サービスのことをいう。医学図書館との違いは対象が医師ではなく患者である点である。

近年の患者の権利をめぐる状況の変化は、病院関係者の認識に大きな影響を与えている。とくに、これまでは患者にとっての図書の役割が、「心のケア」を中心に把握されていたのに対し、医療倫理との関連性が注目されてきている。患者の権利に図書が呼応することはもちろんのこと、インフォームド・コンセントを支援する役割や、セカンドオピニオンとしての図書提供が、病院側の負担軽減にもつながっており、医療紛争軽減にも一助となることが考えられる。

医学教育の現場でも医療倫理として患者との関係が重視され始め、患者の自助努力が重視される状況のなかで、医療側の病院患者図書館の設置状況にも、変化があることが予想される。さらに、インターネットの急速な普及にともない、医療情報の提供形態も多様化しており、インターネットによる情報提供との関連も注目され、専門司書設置も問われ始めている。また、患者中心の医療への転換は、医療行為そのものよりも、患者の総合的な満足度向上を要請し、客観的指標や認証に患者の読書環境が組み込まれつつある。

一方、病院患者図書館に関する網羅的な全国実態調査については、菊池佑による、1974年、1984年、1994年、2000年の調査が行われて以降、空白状態が続いている（菊池佑「病院患者図書館 患者・市民に教育・文化・医療情報を提供」出版ニュース社、2001年参照）。社会環境の変化が、病院患者図書館の実数に及ぼしている影響は、必ずしも明らかではない。そこで、今回、文部科学省科学研究費補助金による補助を受けて、7年ぶりの全国実態調査を行うことにした。その結果、極めて強い勢いで病院患者図書館が拡大しつつある点が浮き彫りにされた。当初の予想以上に病院患者図書館が拡大しつつある結果に鑑み、100床未満の約3000病院を対象に同様の調査・集計作業を現在追加実施中であり、追って全貌を報告したい。

少子高齢社会を向かえつつある日本において、医療費の増大、医療紛争の増加、患者の権利の保障など、多くの問題が山積している。医療側において、未だに父権主義的診療が踏襲されている現状に、患者側の権利の主張はなかなか浸透しない状況がある。その状況打開には、患者意識の改革、医師と患者の良好な信頼関係、治療効果の向上、患者の自助努力の意識の強化のため学びを通じて病院患者図書館を増やすという視点から研究することは有益であると考えられる。

0．調査の目的・手段・結果の概況

0．1 調査の目的

本調査の主目的は、病院患者図書館の数が増加傾向にあるのか否かを過去の実態調査と照らし合わせつつ明らかにする点にある。

第二に、病院患者図書館が存在している施設について、担当者や本の種類、利用対象と方法に関する傾向を、往復葉書による調査という限られた資源のなかで最大限把握することを目指した。

第三に、施設としての図書館から一步はなれ、通院患者および入院患者の読書環境の観点から、病院と図書とのかかわりの現状を理解すべく、質問項目を策定した。

第四に、地域の健康情報拠点としての病院の役割に着目し、公立図書館との連携状況および連携の可能性を見いだすことに狙いを定めた。

0．2 調査の方法

これまでの調査対象病院は、1974年調査では400機関、1984年調査および1994年調査では1200機関、2000年調査では2000機関であった。同規模の調査を目指し、本調査では、独立行政法人福祉医療機構の病院情報データベース“WAM NET”(http://www.wam.go.jp)から100床以上の病院(2410施設)を抽出して行った。

調査手法は、往復葉書による質問調査である。送付および回収は2007年9月から11月の間に行った。

記入集計上の工夫として神奈川県立総合教育センターのフリーソフトウェア“Mark Scan”(http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/markscan)によるマークシート方式を採用した。

返却された葉書は、市販のドキュメント向けイメージスキャナで画像を読み取りPDF形式で保存した後、Mark Scanでマークシートからテキストファイル(csv形式)に変換し、集計を行った。

一連の作業にはMicrosoft ExcelとMicrosoft Accessを適宜使用した。Microsoft Accessを用いたのは、マークシート回収結果と病院情報とを病院整理番号をキーにして照合させるためである。また、csvファイルにはマークあり/なしの情報のみが記載されているにすぎず、必ずしも分析に適しているわけではない。そこで、C#言語による独自ソフトウェアにて整形したほか、病院整理番号を2進数から10進数に復号した。さらに、Excelの音声合成機能で返信葉書原本と集計データの最終チェックを行うための加工も行った。

集計後のデータマイニングには、SPSS12.0Jを使用し、Excelでグラフ化した。白地図は「地図を描く」(青木繁伸, http://aoki2.si.gunma-u.ac.jp/map/map.html, 群馬大学社会情報学部)により作成した。

0．3 質問項目

問1および問2は公立図書館と病院との連携状況を確認する項目である。回答者が必ずしも図書に詳しい担当者とは限らないことから、総務担当事務職員でも回答しやすい項目を冒頭に優先した。

まず、問1では「近隣に公立図書館はありますか」と尋ねた。通院患者が公立図書館で図書を借りたあとに“徒歩”で病院に行き、外来を終えた後に返却できる距離が想定されており、また、入院患者も容易に一時外出できる範囲として、「徒歩5分以内」という選択肢を設けた。さらに、「徒歩20分以内」という選択肢をつかった理由は、“自家用車”で通院する外来患者が立ち寄れる範囲を想定したためであり、また、病院と公立図書館との相互連携の難易度の分かれ目であると考えたからである。問2には「公立図書館と病院との連携はありますか」という項目を設けた。そもそも“連携”の概念は多義的ではあるものの、公立図書館と何らかの連

携を行っている病院数が少数であると予想できたため、詳細に立ち入ることは今後の個別調査に委ねる方針である。また、返信宛名面に自由記載欄を設けることで、任意の回答を期待した。

問3から問4は、患者の読書環境一般を調べるために設けた。問3には、「院内に患者向けの本棚はありますか」という内容で、「入院用あり」「通院用あり」のそれぞれを複数回答可能選択肢として用意した。本棚といっても、設置形態については極めて多様性に富んでいることが予想できる。そして、本棚の概要の推定には、院内において本棚の設置されている場所、本棚の数、冊数の調査が寄与する。しかし、今回の研究の主眼は病院患者図書館の実態把握であり、返信担当者の負担を可能な限り低減するためには、手間のかかる作業を要するこれらの項目については割愛した。

一方、本棚内容の全体傾向を探るために、問4において、「患者向けの本棚がある場合の本の種類」を組み入れることにした。本の種類をみることにより、各病院の本棚がどのような目的で設置されているのかを捉えることが可能であると思われたからである。本の種類には「医学資料」「闘病記」「一般書」「漫画」「雑誌」「パンフレット」「健康ガイド」「新聞」の欄を設けた。

さて、本研究の主題である病院患者図書館に関する質問が問5以降に続くことになる。問5では「院内に独立した患者向けの図書室はありますか」という質問により、いわゆる病院患者図書館の有無を問うている。さらに、今回の調査の主眼である、病院患者図書館拡大の勢いをみるために、問5には「設置検討中」の選択肢も用意した。ところで、独立した患者向けの図書室には、単なる小さな本棚が存在している部屋から、公立図書館の分館規模の大きなものまで、かなりの幅が予想できる。このため、おおよその傾向を探るために、問5で「あり」と回答した病院に限り、問6から問8までの質問を引き続き用意した。

問6では病院患者図書館の担当者について「図書館司書」「看護師」「他職員」「ボランティア」の4区分に分けて調査した。菊池の研究によれば、実質的に患者図書館というべきものは、『担当者』『資料』『専用の図書室』の3条件が揃ったことが不可欠であるとされている。そして、菊池の行ってきたこれまでの全国実態調査においても、「図書館司書」「看護師」「他職員」「ボランティア」を質問項目に含ませてきている。したがって、今回の調査でもこれにならうことで、過去の結果との比較が行えるようにした。

問7では、問4と同じの細目を設けて本の種類を選択できるようにしてある。問4では本棚一般について質問であったのに対して、問7では独立した図書室について限定されている点で異なる。また、問8は利用対象と方法についての項目であり、利用対象として「入院患者」「通院患者」「職員」「一般人」を、方法として「貸出」「病棟へ配本」の項目を設けた。問8は他の質問項目よりも凝縮されている感が否めないとはいえ、個々の病院患者図書館の特性を掘り下げる研究は、先行研究および今後の調査に委ねることにした。

0.4 調査結果概況

全体的な結果としては、2000年時点の調査(2000病院対象)では「担当者」「資料」「専用の図書室」の3条件が揃った患者図書館サービスは43施設であったのに対して、今回(回収率48%)は114施設という結果になった。このほかに設置検討中の病院が43施設あったことからすると、極めて強い勢いで病院患者図書館が拡大しつつあるといえる。

本研究は、科学研究費補助金(基盤研究(C))(研究協力者:菊池佑氏・Maurice E Jenkins氏・前田まゆみ氏)の研究助成を受けた研究である。記して深謝するとともに、調査にご協力いただいた病院の皆様に御礼申し上げます。

1 アンケート結果の概観

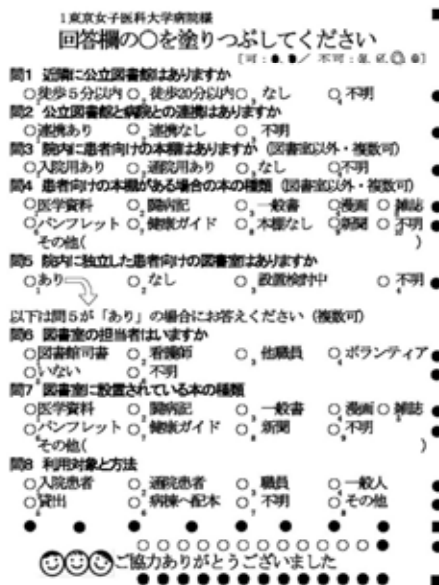


図1-1 アンケート葉書の内容

1 近隣に公立図書館はありますか	徒歩5分以内	徒歩20分以内	なし	不明					
	154	505	465	27					
2 公立図書館と病院との連携はありますか	連携あり	連携なし	不明						
	63	1080	14						
3 院内に患者向けの本棚はありますか	入院用あり	通院用あり	なし	不明					
	564	635	338	12					
4 患者向けの本棚がある場合の本の種類	医学資料	闘病記	一般書	漫画	雑誌	パンフレット	健康ガイド	新聞	
	172	110	587	399	543	399	339	202	
	本棚なし	不明							
	4	5							
5 院内に独立した患者向けの図書室はありますか	あり	なし	設置検討中	不明					
	128	995	41	6					
6 図書室の担当者はいますか	図書館司書	看護師	他職員	ボランティア	いない	不明			
	34	8	50	61	14	0			
7 図書室に設置されている本の種類	医学資料	闘病記	一般書	漫画	雑誌	パンフレット	健康ガイド	新聞	不明
	90	65	103	59	59	54	54	16	0
8 利用対象と方法	入院患者	通院患者	職員	一般人	貸出	病棟へ配本	不明	その他	
	116	93	71	50	63	17	1	4	

表1-1 各設問別回答結果

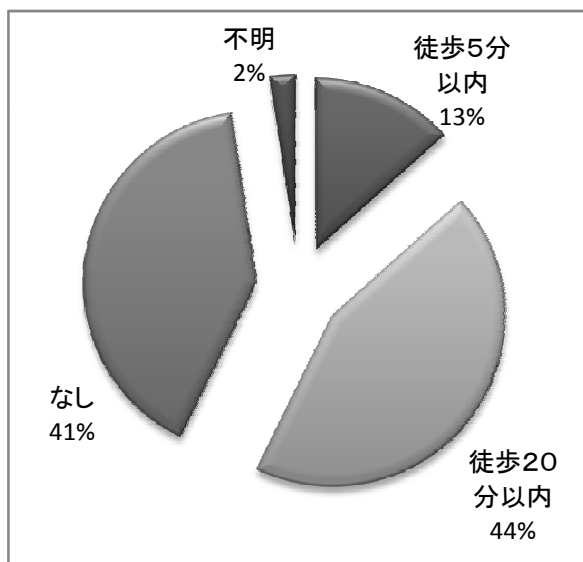


図 1 - 2 問1 近隣に公立図書館はありますか

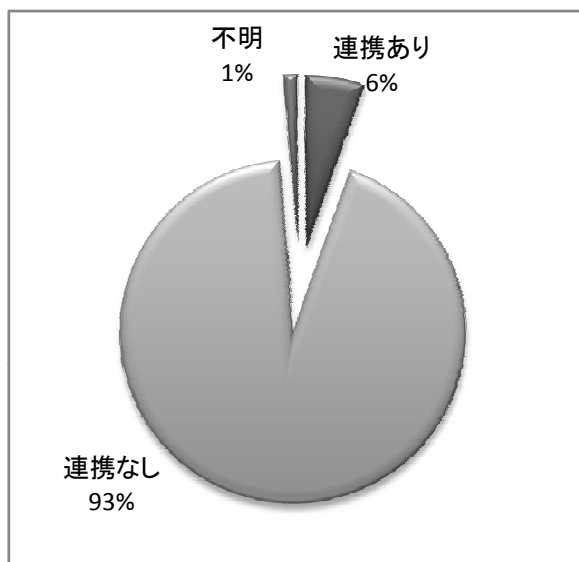


図 1 - 3 問2 公立図書館と病院の連携はありますか

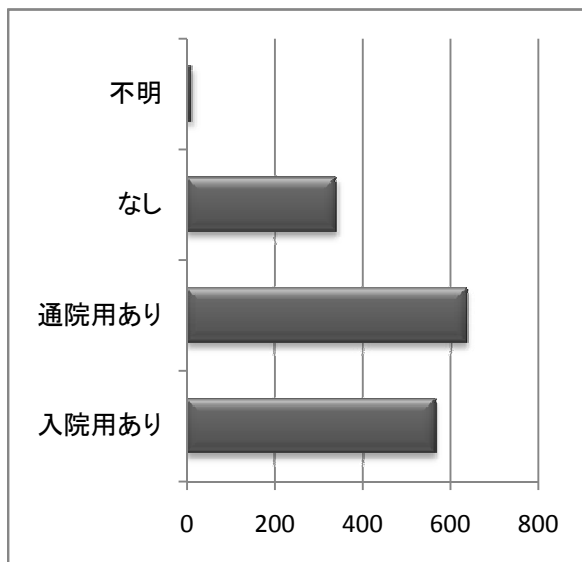


図 1 - 4 問3 院内に患者向けの本棚はありますか

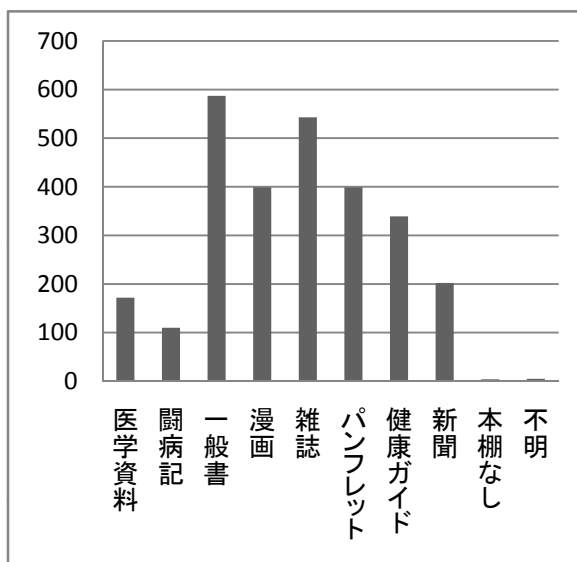


図 1 - 5 問4 患者向け本棚がある場合の本の種類

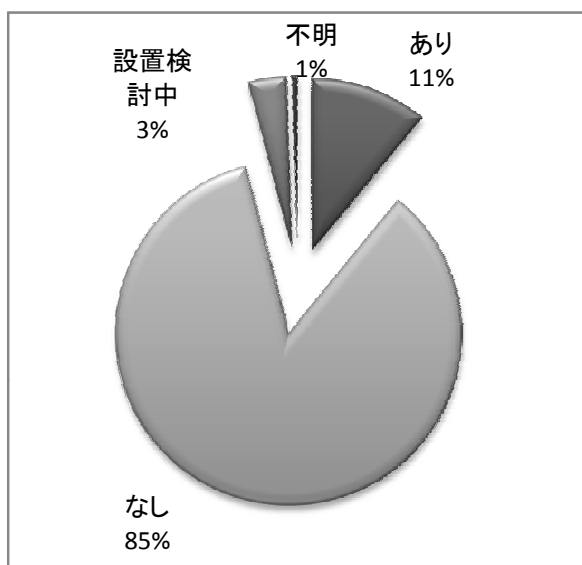


図 1 - 6 問5 独立した患者向けの図書室はありますか

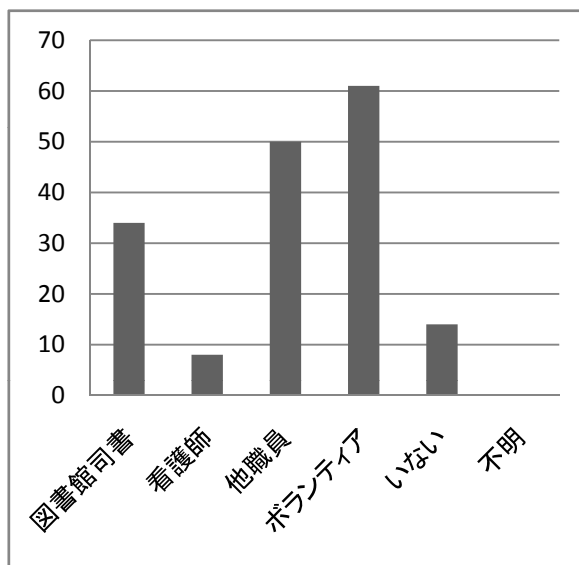


図 1 - 7 問6 図書室の担当者はいますか

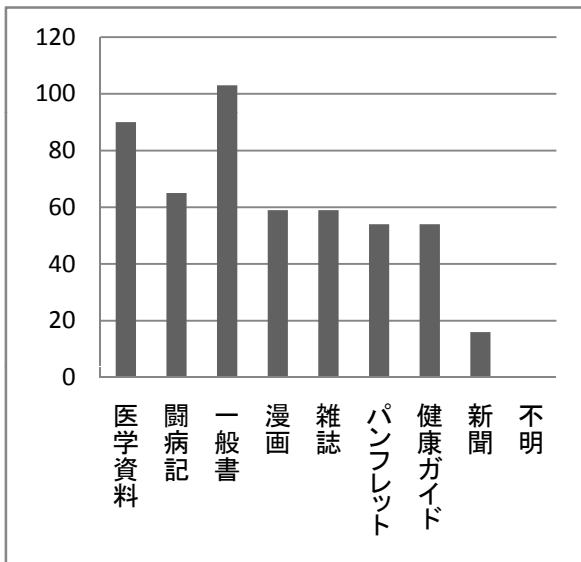


図 1-8 問7 図書室に設置されている本の種類

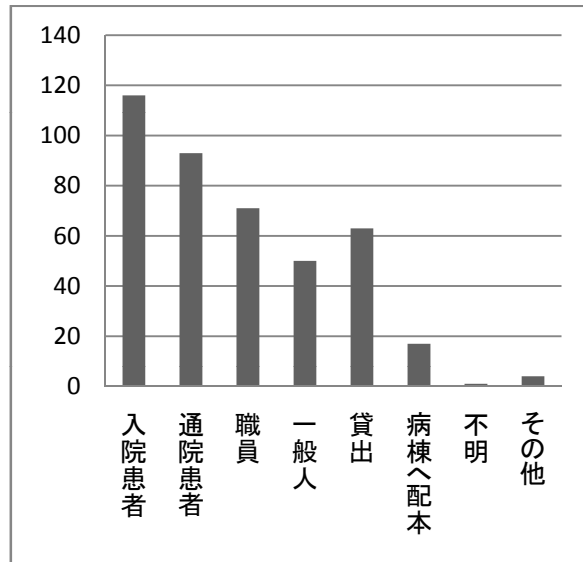


図 1-9 問8 利用対象と方法

2 自由記載

(病院を特定できる部分はできるだけ削除しております)

全般

- ・職員向けの図書室あり
- ・調査結果を教えてください
- ・図書による感染を心配している病院もあるとお聞きますが実際はどのようなのでしょうか(当院は特に配慮なし)
- ・公立図書館から週1回出張サービスで本を届けてもらっています
- ・患者図書について当院ではディールーム内に棚をおいて寄贈された文庫本・コミック等と一緒にありますが『家庭の医学』等の書籍以外は、紛失してしまうのが現状です
- ・患者用の図書室は設置したいと思っているが院内スペースの問題で設置できない
- ・職員向け図書室は設置しております
- ・私たちが他病院の状況を知りたいので調査結果を是非教えていただきたいです。よろしくお願ひします
- ・患者様の待ち時間の長い科のイスの前にはマンガ本、雑誌等がおいてあります。例、乳腺(外科)外来には、前立腺癌の検査に関するパンフレットetc.総合検診センター(人間ドック)には、一般向けの健康雑誌、新聞、月刊誌、週刊誌等、たくさんおいてあります。2年後新棟が建ちますが、そこに患者様向け図書スペースができます
- ・研究所内には、図書室があり、専門誌(医学書、Radiology等生物系)を置いている
- ・お疲れ様です。回答結果をぜひとも知りたいです。よろしくお願ひします
- ・集計結果をお送りください
- ・図書室は狭いため患者さんが入室して本を選ぶことはできません。ボランティアがカートに乗せて各階の病室を巡回して貸し出ししております(週2回)
- ・職員対象の図書室は設置しております
- ・入院している患者、家族のために職員等の寄付により本を集めて移動棚に収納し院内ラウンドしたりして本を貸し出ししたりしています
- ・職員用の図書室はあります
- ・患者図書室については残念ながら当院ではまだ論ずるにも至っておらず図書室担当者としては歯がゆい思いでおります。ご研究がなりました折には、研究報告をぜひ拝読させていただきたく所存です。ご連絡をありがとうございます
- ・いいなステーションの調査が先行研究でいつも参考にしております。問2の「連携」の範囲がよくわかりませんでしたので、なしと回答しました。県立図書館間では情報交換、資料送付、講師紹介等、細々とあります。定期物流便がない形の相互貸借もケースは少ないですがあります
- ・病棟内に移動図書棚(業者による)が週に3~4日きています(有料貸本)
- ・調査結果は公表されるのでしょうか?公表されるのであれば結果を知りたく思いますので、情報等お知らせしていただきたいなと思います。図書室担当
- ・私は日本病院ライブラリー協会に所属しております。つきましては、よろしければ、以下をお願いしたいです。当会で行っている患者図書サービス支援事業について知ってほしい、報告がまとまったら、当会にお知らせいただきたい、当会の機関紙などでも紹介できると思います。どうぞよろしくお願ひします。詳しくはホームページを
- ・平成20年1月に、供用開始予定で別棟に独立した患者向け図書館を整備しており、現在最終的検討を行っており、予定としては、問6:他職員とボランティア(当面は他職員のみ)、問7:医学資料、闘病記、一般図書、健康ガイド、問8:入院患者、通院患者、一般人
- ・できれば調査の結果作成されたもの(論文)をみせていただきたいと思います
- ・裏面の下段に書きましたがこれを基に書かれた論文を見せていただきたいと思います。
- ・一般書(非医学)については、週1回ボランティアが巡回サービス(病棟)を実施しております。このサービスに関しては司書は関与しておりません
- ・たいへん遅くなり申し訳ありません。調査結果および研究報告書をお送りいただけると幸いです。よろしくお願ひ
- ・問5に関して、独立した患者向けの図書室はありませんが、図書コーナーはあり、パソコンでの医学情報検索や、レファレンス等による文献の取り寄せ等提供は無償で行っており、活用されております。また、担当は司書資格を持った図書室司書が専従で行っており、今年5月に開設したばかりです
- ・新築移転2008年1月1日より名称変更。※患者図書機能をもつ情報コーナー設置予定(企画中)
- ・利用される患者様からは大変好評で、ジャンルは幅広くなお、乳幼児から大人まで、また、男女それぞれに親しまれる内容にしています。所蔵冊数は役1800冊程、月刊誌は2種程、定期購入。当初の品揃えは6割購入、4割寄贈(患者職員ドクター)。書物1冊1冊ブッカーをかけて衛生管理をしており、室内は四季折々の草花を飾っており、これも大好評です
- ・公立病院図書室なのに、患者専用の図書室がなく、公立図書館の移動図書など検討したのですが、なかなか実現できません。つくるためがんばっています
- ・お世話になります。図書室をこれから当院でも整備して行こうと考えておりますが、海外のようなシステムティックな患者図書館は国内ではまだなく、見学や参考の機会を得ることがまだ出来ておりません。先生の研究により他院のテクニック等将来的に知ることが出来るようになりますことを期待しております
- ・結果知らせて頂けるとありがたいです
- ・□患者向け図書室と一概にいても、さまざまな方式があると思います。当院では職員用の職員図書室と、患者様を中心とした患者様ライブラリーおよび情報コーナー健康の駅があります。その他「全国患者図書サービス連絡会」「いいなステーション」など、患者様向けのサイトもありますのでご参照されてはいかがでしょうか
- ・各病棟、外来以外の本棚の他に巡回図書室を行っています

- ・医療者用図書室の担当者(司書)が患者図書室の運営
- ・当院では約10年以上前から病院内の会議室を利用して毎月1回日曜日に患者さん向けの貸出サービスをおこなっております。ボランティアで行っています。専用の部屋が確保できませんので、月1回のサービスとなっております
- ・患者図書サービスのうち { * 入院患者(患児)向け児童図書サービス1995年より * 患者ご家族向け医学情報提供 医学図書室の開放 2003年より} 県内の公共図書館との連携 { * 県図書館連協会加盟 2006年 * 「公共図書館における医学情報の提供」研修講師 当院司書担当 2007年10月4日 }
- ・ごくろう様です。問1について 都会と違って徒歩では無理な場合が多く自家用車が公共交通が必要となっていて、車で約20分程、隣の市までは車で約30分程必要となります
- ・急性期の病院で高齢者が多くなっていますので医学図書の利用が少し少ないようです。活用して頂けるように工夫をしていきたいと思っています。御教示いただければありがたいです
- ・当院の図書室は職員が日常使う医学雑誌・専門図書と、患者さん向のやさしく書かれた医療図書をひと部屋で全て公開しています(職員への貸出は行っていますが患者さんには貸出していません) 小説などの一般書は病棟外来に置き、図書室には医学図書と医学雑誌を置いています
- ・職員用図書室あり、司書1名

問1

- ・問1に関しては徒歩30分から40分ほどのところにあります
- ・公立図書館はあるが徒歩40分位かかる
- ・問1で公立図書館はありますが、徒歩で20分以上かかる場所なので、それならば近隣とはいえないという意味で3のなしを選びました
- ・車で10分
- ・徒歩30分
- ・徒歩30分以上
- ・車で10～15分
- ・徒歩30分くらい
- ・徒歩30分以内
- ・徒歩30分またはバス・地下鉄で20分
- ・徒歩30分
- ・徒歩20分以上
- ・徒歩5分以内:地区センターに図書室。区図書館は徒歩30分くらい
- ・徒歩10分
- ・徒歩20分以上
- ・公立図書館 30分位あり
- ・但し車で10分程度にあり
- ・車で20分位です

問2

- ・問2について、月1～2回、移動図書館が巡回します
- ・ただし大学等あり
- ・連携(娯楽書の長期貸し出し:今はしていない)
- ・予定あり
- ・司書の交流、情報交換のみ行っている

問3

- ・問3について、入院患者様用の本棚は、週1回移動図書で運用されております
- ・ラックが外来にあり
- ・(一部)
- ・市の移動図書館が2週間に1回来院
- ・患者図書室のことです
- ・入院用＝小児科病棟のみ
- ・マガジンラック

問4

- ・絵本
- ・児童図書
- ・子供向け絵本
- ・小児科外来に絵本
- ・児童書
- ・絵本
- ・広報
- ・絵本(子供用)
- ・スタンドに新聞、雑誌等設置

- ・小児科に絵本等
- ・絵本
- ・絵本
- ・子ども向け絵本
- ・絵本、童話
- ・ボランティアによる移動図書の貸し出しを行っております
- ・絵本
- ・子ども向け絵本、県・市の広報誌
- ・絵本、児童書
- ・退院された患者様のご厚意により集まったもの等
- ・絵本
- ・絵本
- ・マガジンラックにパンフレット類を配架
- ・当院の広報・周辺町の町報のバックナンバー
- ・童話等児童向け
- ・小冊子(月間)、ロハスメディアルは病院案内、広報のとなりにおいてあります。
- ・インターネット(印刷可)2台、コピー機1台、ビデオ1台
- ・絵本
- ・患者情報プラザとしてコーナーを設置。
- ・医療系フリーペーパー
- ・図鑑、写真集
- ・絵本(小児科外来のみ)
- ・絵本
- ・絵本、児童書、趣味の本
- ・退院する患者さんが置いていった物などです。
- ・絵本
- ・主に趣味、児童書
- ・絵本
- ・本棚としての設置はしてない。
- ・絵本
- ・パンフレットと健康ガイドの違いがよくわかりませんが
- ・病院発行の広報誌
- ・絵本、児童書
- ・ほかにもあるかもしれないがわからない
- ・院内報、院外報
- ・絵本など
- ・絵本
- ・絵本
- ・病院広報誌
- ・児童書
- ・図鑑
- ・児童書
- ・絵本
- ・病院紹介パンフレット
- ・待合と各病棟談話室に雑誌おきはありますが病院で本を買って置くといったことはしていません。待合に一般雑誌を2種類買って置いております
- ・絵本・児童書
- ・市政広報紙、絵本
- ・新聞切り抜き部分
- ・聖書
- ・絵本・物語
- ・小児病棟のプレイルームにある絵本
- ・小児・児童用の本
- ・新聞＝待合室
- ・子供向けの本
- ・ビデオテープ・絵本

- ・絵本
- ・子供用図書
- ・本棚の設置場所により違いがある
- ・県・市・医療機関広報
- ・絵本等

問5

- ・職員用のみの図書室あり
- ・併設
- ・職員用あり
- ・職員向け
- ・(移動)
- ・ひまわり文庫があるが、開放していない。週1回病棟へ貸し出ししている
- ・移動書架にて病棟で貸し出し
- ・医学図書館を患者向けにコーナーをつくり開放しています。詳しくは、ウェブいいなステーションサイトをご覧ください
- ・2008年1月よりオープン予定
- ・プレイルームに本棚あり
- ・2008年5月開設予定で検討を進めている(準備を含めて)
- ・待合スペースに図書コーナーあり。ボランティア室に閉架書庫あり
- ・設置検討中 2008年1月予定
- ・ボランティア図書館
- ・図書コーナーあり
- ・医学図書室を一般利用者に開放しています その他にボランティア運営の一般図書室あり
- ・他目的の部屋を期間を限定して使用
- ・スタッフ向け医学図書室を開放

問6

- ・巡回カートによる移動図書。問7カートの中
- ・無人
- ・他職員(兼務)
- ・患者図書委員会の職員

問7

- ・専門書
- ・医学書
- ・医療従事者用雑誌、行政財政関係資料
- ・インターネット(印刷可)2台、コピー機1台、ビデオ1台
- ・辞書
- ・画集
- ・新聞のところで切抜きをファイリング
- ・参考書、統計学
- ・児童書
- ・患者会資料
- ・漫画は巡回文庫で貸出
- ・病院や治療に関するビデオ、インターネット用PC
- ・インターネット接続のパソコン2台あり
- ・趣味の本
- ・雑誌＝医学 その他＝児童図書
- ・新聞切り抜き記事
- ・和雑誌・外国雑誌・医学図書

問8

- ・医師会
- ・ご家族
- ・患者の家族
- ・一般人(家族のみ)
- ・貸し出し(職員のみ可)
- ・購買部署へ配本
- ・貸出 入院患者のみ
- ・患者家族・友の会員など閲覧
- ・患者家族・内容 の閲覧のみ
- ・入院患者の家族(つきそい)可

3 県別集計

1 返信率

	都道府県	度数	度数/返信
1	福島	7	68%
2	秋田	5	64%
3	広島	34	63%
4	富山	16	63%
5	鳥取	31	62%
6	新潟	15	61%
7	福井	18	61%
8	山形	6	61%
9	長野	20	59%
10	静岡	22	58%
11	岩手	3	58%
12	長崎	42	54%
13	青森	2	53%
14	北海道	1	53%
15	島根	32	53%
16	高知	39	53%
17	熊本	43	51%
18	岡山	33	51%
19	群馬	10	50%
20	山口	35	50%
21	栃木	9	50%
22	石川	17	50%
23	愛知	23	49%
24	福岡	40	48%

	都道府県	県別返信数	度数/返信
25	和歌山	30	48%
26	宮崎	45	48%
27	京都	26	48%
28	宮城	4	48%
29	奈良	29	47%
30	徳島	36	47%
31	千葉	12	46%
32	東京	13	46%
33	大分	44	45%
34	愛媛	38	45%
35	茨城	8	45%
36	香川	37	44%
37	沖縄	47	44%
38	佐賀	41	44%
39	鹿児島	46	43%
40	大阪	27	43%
41	兵庫	28	43%
42	三重	24	42%
43	滋賀	25	41%
44	神奈川	14	40%
45	山梨	19	38%
46	岐阜	21	38%
47	埼玉	11	34%

表3-1 返信率(都道府県割合順)

白地図へのペイント

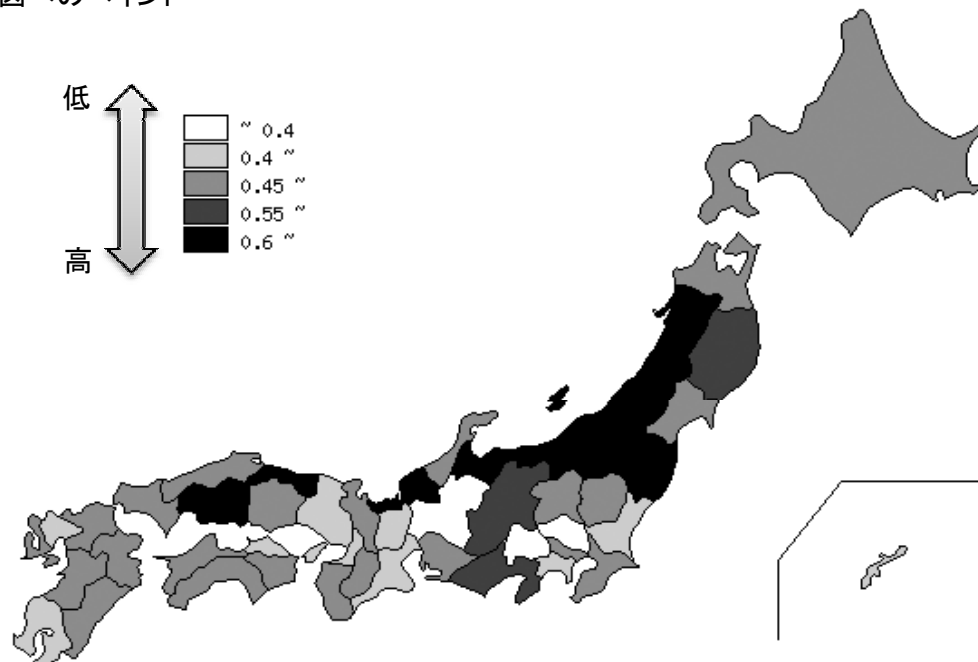


図3-1 返信率(都道府県別塗り分け)

2 公立図書館との連携率

	都道府県	度数	度数/返信
1	鳥取	31	25%
2	島根	32	22%
3	山形	6	21%
4	富山	16	20%
5	高知	39	20%
6	大分	44	20%
7	滋賀	25	18%
8	佐賀	41	14%
9	神奈川	14	10%
10	熊本	43	10%
11	静岡	22	9%
12	大阪	27	9%
13	沖縄	47	9%
14	岡山	33	9%
15	宮崎	45	8%
16	三重	24	7%
17	岐阜	21	7%
18	千葉	12	7%
19	新潟	15	7%
20	埼玉	11	6%
21	青森	2	6%
22	岩手	3	6%
23	長崎	42	5%
24	群馬	10	5%

	都道府県	県別返信数	度数/返信
25	茨城	8	5%
26	兵庫	28	4%
27	長野	20	4%
28	東京	13	4%
29	福島	7	3%
30	北海道	1	3%
31	広島	34	2%
32	秋田	5	0%
33	福井	18	0%
34	山口	35	0%
35	栃木	9	0%
36	石川	17	0%
37	愛知	23	0%
38	福岡	40	0%
39	和歌山	30	0%
40	京都	26	0%
41	宮城	4	0%
42	奈良	29	0%
43	徳島	36	0%
44	愛媛	38	0%
45	香川	37	0%
46	鹿児島	46	0%
47	山梨	19	0%

表3-2 公立図書館との連携率(都道府県割合順)

白地図へのペイント

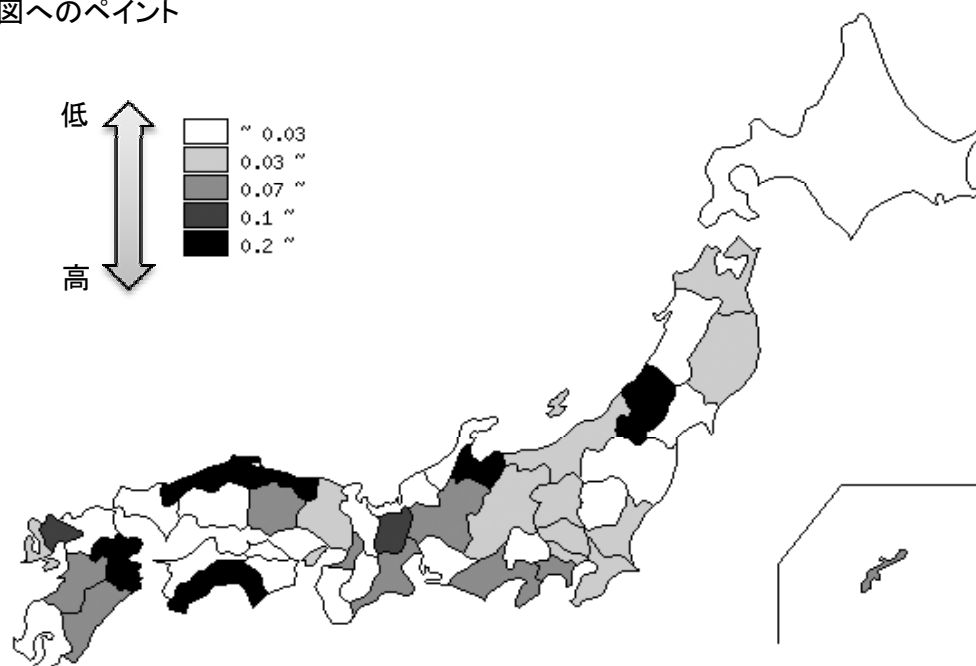


図3-2 公立図書館との連携率(都道府県別塗り分け)

3 入院患者用本棚の設置率

	都道府県	度数	度数/返信
1	石川	17	85%
2	山形	6	71%
3	山口	35	65%
4	広島	34	61%
5	富山	16	60%
6	高知	39	60%
7	静岡	22	59%
8	福島	7	59%
9	青森	2	59%
10	北海道	1	56%
11	神奈川	14	56%
12	岩手	3	56%
13	長崎	42	55%
14	千葉	12	55%
15	大分	44	53%
16	栃木	9	53%
17	埼玉	11	53%
18	東京	13	52%
19	福岡	40	50%
20	宮崎	45	50%
21	山梨	19	50%
22	岡山	33	48%
23	新潟	15	47%
24	兵庫	28	46%

	都道府県	県別返信数	度数/返信
25	京都	26	45%
26	滋賀	25	45%
27	沖縄	47	45%
28	島根	32	44%
29	熊本	43	43%
30	群馬	10	43%
31	佐賀	41	43%
32	長野	20	42%
33	宮城	4	38%
34	愛知	23	38%
35	鳥取	31	38%
36	福井	18	36%
37	香川	37	36%
38	愛媛	38	36%
39	奈良	29	35%
40	大阪	27	33%
41	茨城	8	33%
42	秋田	5	33%
43	三重	24	29%
44	岐阜	21	29%
45	徳島	36	29%
46	鹿児島	46	25%
47	和歌山	30	25%

表3-3 入院患者用本棚の設置率(都道府県割合順)

白地図へのペイント

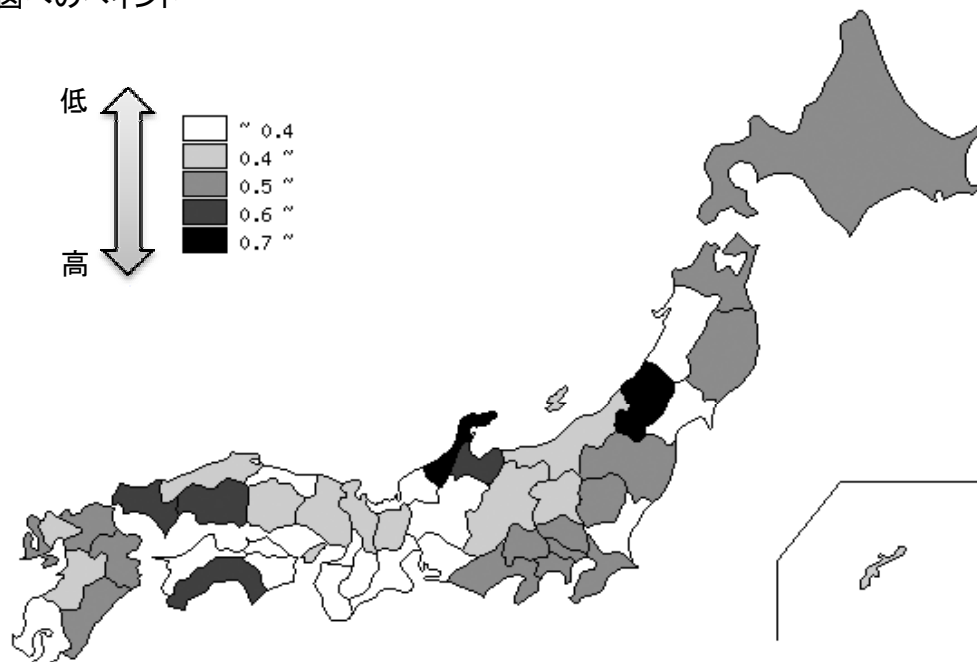


図3-3 入院患者用本棚の設置率(都道府県別塗り分け)

4 通院患者用本棚の設置率

	都道府県	度数	度数/返信
1	宮崎	45	83%
2	沖縄	47	82%
3	岡山	33	74%
4	群馬	10	71%
5	茨城	8	71%
6	広島	34	71%
7	高知	39	70%
8	鹿児島	46	69%
9	大分	44	67%
10	島根	32	67%
11	山口	35	65%
12	愛媛	38	64%
13	滋賀	25	64%
14	福井	18	64%
15	鳥取	31	63%
16	石川	17	62%
17	栃木	9	60%
18	和歌山	30	58%
19	長野	20	58%
20	福岡	40	57%
21	山形	6	57%
22	熊本	43	57%
23	佐賀	41	57%
24	宮城	4	57%

	都道府県	県別返信数	度数/返信
25	徳島	36	57%
26	岩手	3	56%
27	千葉	12	55%
28	香川	37	55%
29	福島	7	53%
30	静岡	22	50%
31	神奈川	14	50%
32	長崎	42	50%
33	東京	13	50%
34	山梨	19	50%
35	秋田	5	50%
36	三重	24	50%
37	北海道	1	49%
38	京都	26	48%
39	大阪	27	48%
40	青森	2	47%
41	奈良	29	47%
42	埼玉	11	47%
43	愛知	23	44%
44	新潟	15	43%
45	岐阜	21	43%
46	富山	16	40%
47	兵庫	28	38%

表3-4 通院患者用本棚の設置率(都道府県割合順)

白地図へのペイント

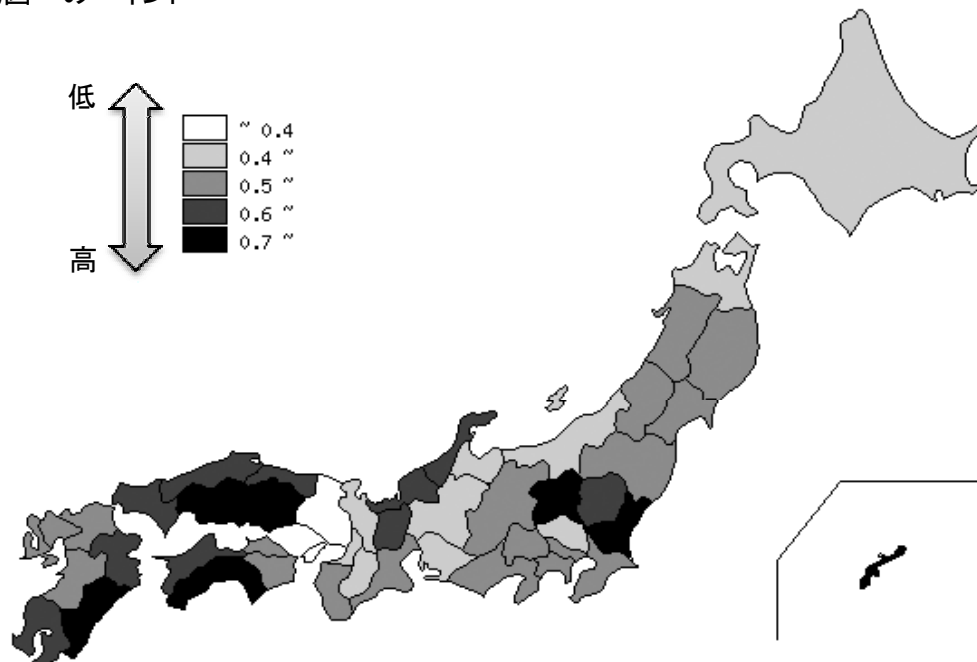


図3-4 通院患者用本棚の設置率(都道府県別塗り分け)

5 独立した患者向け図書室：設置数＋計画数：対返信数

	都道府県	度数	度数/返信
1	石川	4	31%
2	茨城	6	29%
3	福井	3	27%
4	岡山	6	26%
5	長野	6	23%
6	神奈川	12	23%
7	岩手	4	22%
8	東京	18	21%
9	高知	2	20%
10	長崎	4	20%
11	富山	3	20%
12	沖縄	2	18%
13	滋賀	2	18%
14	山口	3	18%
15	青森	3	18%
16	兵庫	8	16%
17	埼玉	5	16%
18	愛知	7	16%
19	京都	5	15%
20	福岡	8	15%
21	福島	5	15%
22	山形	2	14%
23	熊本	3	14%
24	佐賀	1	14%

	都道府県	県別返信数	度数/返信
25	三重	2	14%
26	大分	2	13%
27	栃木	2	13%
28	鹿児島	2	13%
29	鳥取	1	13%
30	静岡	4	13%
31	山梨	1	13%
32	島根	1	11%
33	大阪	8	11%
34	北海道	8	10%
35	新潟	3	10%
36	広島	4	10%
37	宮城	2	10%
38	千葉	4	9%
39	岐阜	1	7%
40	秋田	1	6%
41	群馬	1	5%
42	宮崎	0	0%
43	愛媛	0	0%
44	和歌山	0	0%
45	徳島	0	0%
46	香川	0	0%
47	奈良	0	0%

表3-5 独立した患者向け図書室：設置数＋計画数：対返信数(都道府県割合順)

白地図へのペイント

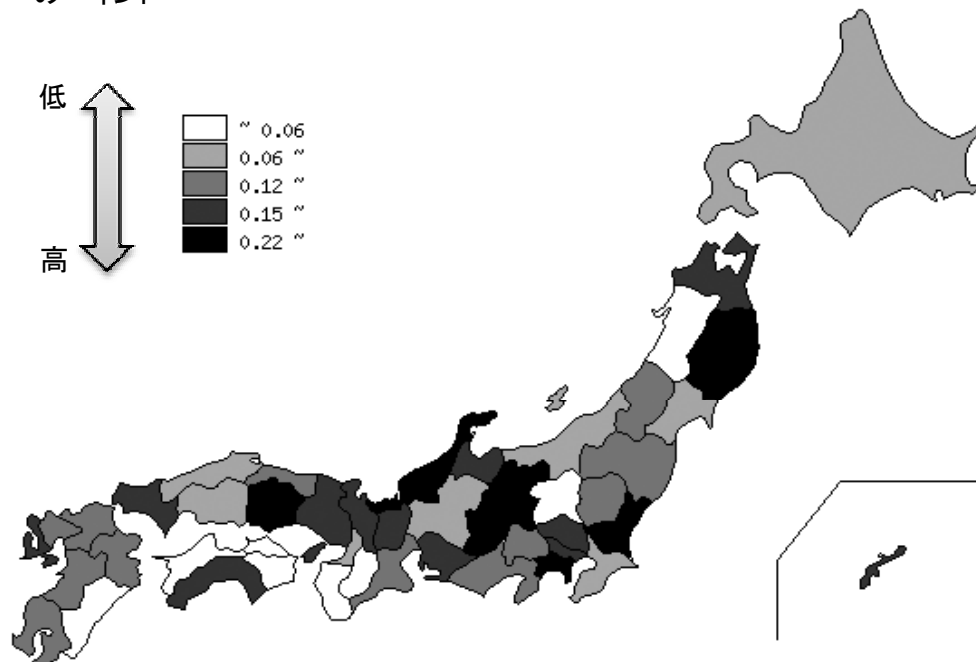


図3-5 独立した患者向け図書室：設置数＋計画数：対返信数(都道府県別塗り分け)

6 独立した患者向け図書室：設置数＋計画数：対送付数

	都道府県	度数	度数/送付		都道府県	県別返信数	度数/送付
1	福井	3	17%	25	栃木	2	7%
2	石川	4	15%	26	佐賀	1	6%
3	長野	6	14%	27	広島	4	6%
4	岡山	6	13%	28	新潟	3	6%
5	岩手	4	13%	29	三重	2	6%
6	茨城	6	13%	30	大分	2	6%
7	富山	3	13%	31	島根	1	6%
8	長崎	4	11%	32	北海道	8	5%
9	高知	2	11%	33	鹿児島	2	5%
10	福島	5	10%	34	埼玉	5	5%
11	東京	18	10%	35	山梨	1	5%
12	青森	3	9%	36	大阪	8	5%
13	神奈川	12	9%	37	宮城	2	5%
14	山口	3	9%	38	千葉	4	4%
15	山形	2	9%	39	秋田	1	4%
16	沖縄	2	8%	40	岐阜	1	3%
17	愛知	7	8%	41	群馬	1	2%
18	鳥取	1	8%	42	宮崎	0	0%
19	滋賀	2	7%	43	愛媛	0	0%
20	熊本	3	7%	44	和歌山	0	0%
21	静岡	4	7%	45	徳島	0	0%
22	京都	5	7%	46	香川	0	0%
23	福岡	8	7%	47	奈良	0	0%
24	兵庫	8	7%				

表3-6 独立した患者向け図書室：設置数＋計画数：対送付数(都道府県割合順)

白地図へのペイント

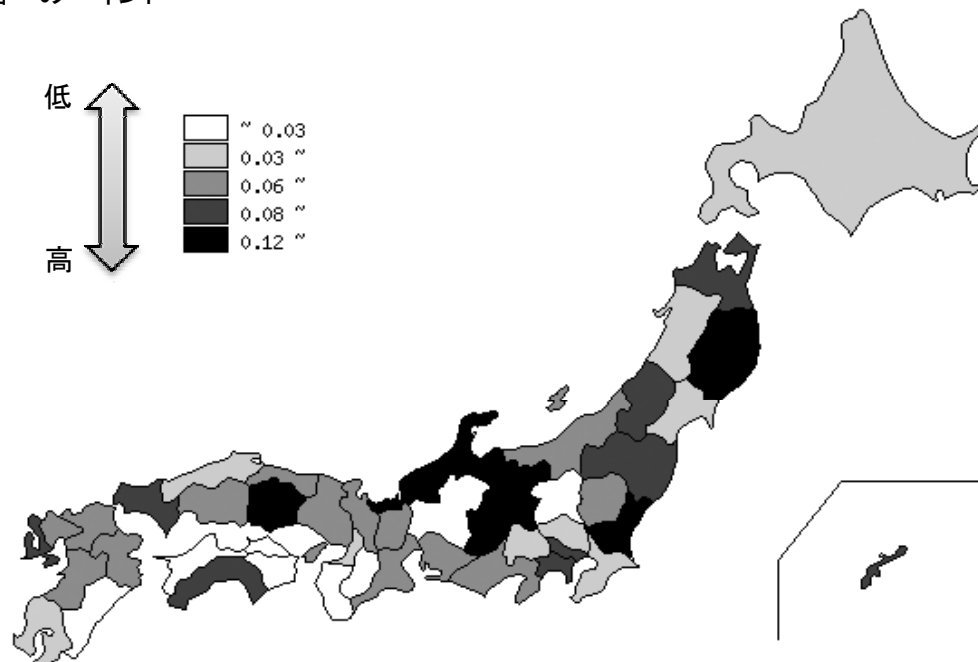


図3-6 独立した患者向け図書室：設置数＋計画数：対送付数(都道府県別塗り分け)

7 本棚または図書室：設置数＋計画数：対返信数

	都道府県	度数	度数/返信		都道府県	県別返信数	度数/返信
1	山口	35	94%	25	香川	37	73%
2	石川	17	92%	26	岩手	3	72%
3	島根	32	89%	27	静岡	22	72%
4	青森	2	88%	28	群馬	10	71%
5	鳥取	31	88%	29	徳島	36	71%
6	岡山	33	87%	30	愛媛	38	71%
7	栃木	9	87%	31	佐賀	41	71%
8	大分	44	87%	32	高知	39	70%
9	山形	6	86%	33	長崎	42	70%
10	宮崎	45	83%	34	愛知	23	69%
11	滋賀	25	82%	35	埼玉	11	69%
12	沖縄	47	82%	36	北海道	1	68%
13	茨城	8	81%	37	和歌山	30	67%
14	広島	34	80%	38	熊本	43	67%
15	千葉	12	80%	39	長野	20	65%
16	京都	26	79%	40	岐阜	21	64%
17	福岡	40	78%	41	三重	24	64%
18	福島	7	76%	42	山梨	19	63%
19	宮城	4	76%	43	新潟	15	60%
20	東京	13	75%	44	兵庫	28	60%
21	鹿児島	46	75%	45	大阪	27	59%
22	富山	16	73%	46	秋田	5	56%
23	神奈川	14	73%	47	奈良	29	53%
24	福井	18	73%				

表3-7 本棚または図書室：設置数＋計画数：対返信数（都道府県割合順）

白地図へのペイント

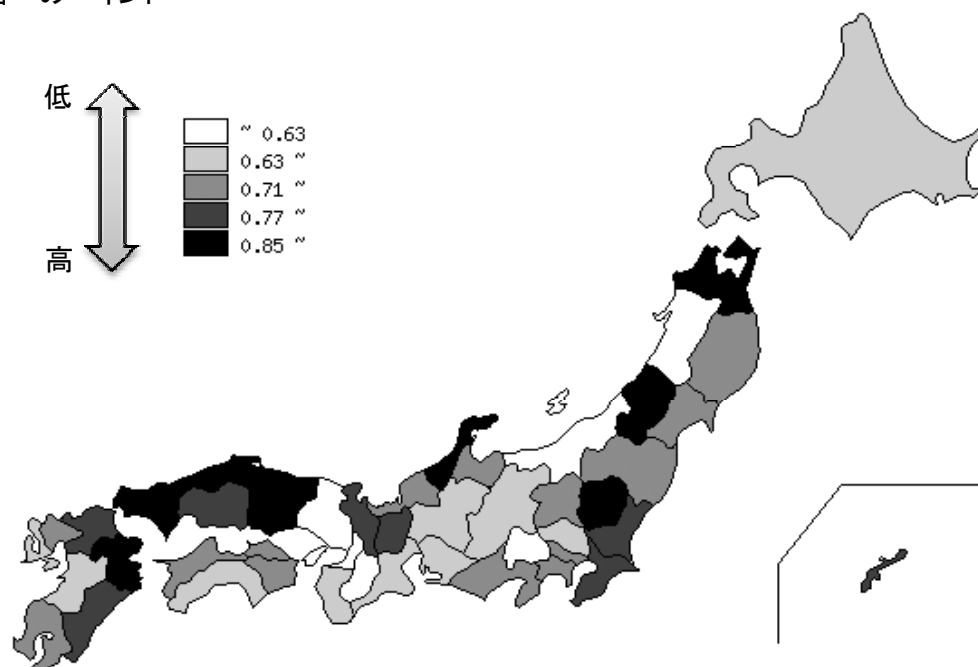


図3-7 本棚または図書室：設置数＋計画数：対返信数（都道府県別塗り分け）

8 本棚または図書室：設置数＋計画数：対送付数

	都道府県	度数	度数/送付		都道府県	県別返信数	度数/送付
1	鳥取	7	54%	25	茨城	17	36%
2	山形	12	52%	26	北海道	53	36%
3	福島	26	52%	27	沖縄	9	36%
4	広島	33	51%	28	群馬	15	36%
5	山口	16	47%	29	秋田	10	36%
6	島根	8	47%	30	東京	63	35%
7	青森	15	47%	31	熊本	14	34%
8	石川	12	46%	32	愛知	31	34%
9	富山	11	46%	33	滋賀	9	33%
10	岡山	20	44%	34	徳島	5	33%
11	福井	8	44%	35	鹿児島	12	32%
12	栃木	13	43%	36	愛媛	10	32%
13	岩手	13	42%	37	香川	8	32%
14	静岡	23	42%	38	和歌山	8	32%
15	宮崎	10	40%	39	佐賀	5	31%
16	大分	13	39%	40	神奈川	38	29%
17	長野	17	39%	41	三重	9	27%
18	長崎	14	38%	42	兵庫	30	26%
19	京都	26	38%	43	大阪	44	25%
20	福岡	42	38%	44	奈良	9	25%
21	千葉	35	37%	45	岐阜	9	24%
22	高知	7	37%	46	山梨	5	24%
23	新潟	18	37%	47	埼玉	22	24%
24	宮城	16	36%				

表3-8 本棚または図書室：設置数＋計画数：対送付数（都道府県割合順）

白地図へのペイント

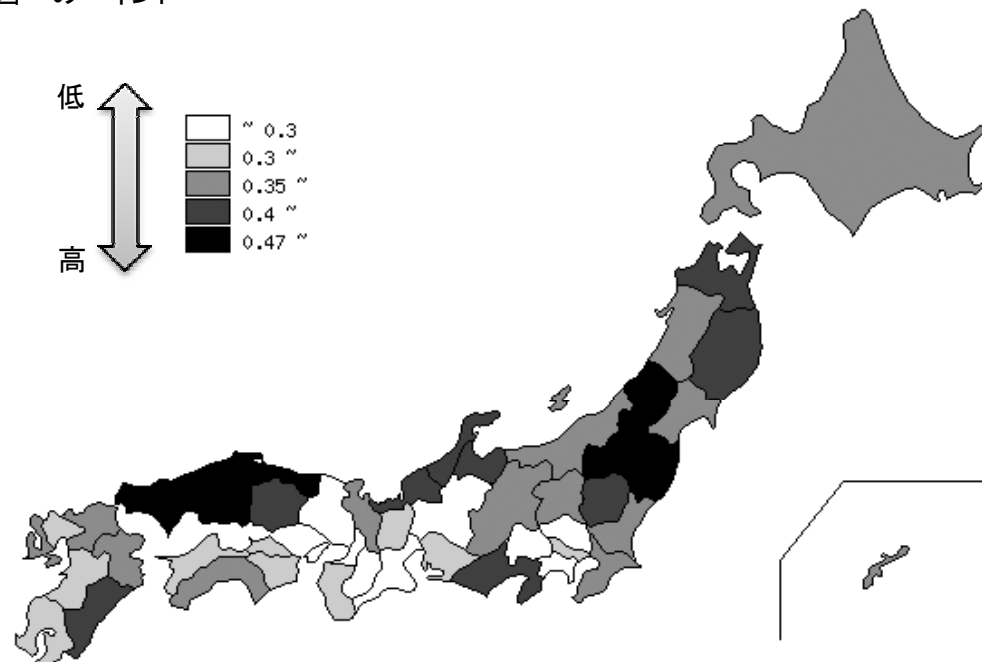


図3-8 本棚または図書室：設置数＋計画数：対送付数（都道府県別塗り分け）

4 診療科別集計

診療科	図書室なし	図書室あり	図書室ありの率	診療科	図書室なし	図書室あり	図書室ありの率
全体	1043	128	11%	泌尿器科なし	299	19	6%
内科なし	34	3	8%	泌尿器科あり	744	109	13%
内科あり	1009	125	11%	性病科なし	1035	126	11%
呼吸器科なし	512	41	7%	性病科あり	8	2	20%
呼吸器科あり	531	87	14%	肛門科なし	834	112	12%
消化器科なし	379	33	8%	肛門科あり	209	16	7%
消化器科あり	664	95	13%	皮膚科・泌尿器科系	3129	384	11%
循環器科なし	299	20	6%	産婦人科なし	555	49	8%
循環器科あり	744	108	13%	産婦人科あり	488	79	14%
気管食道科なし	1009	112	10%	産科なし	1015	116	10%
気管食道科あり	34	16	32%	産科あり	28	12	30%
内科系	5215	640	11%	婦人科なし	902	104	10%
小児科なし	307	24	7%	婦人科あり	141	24	15%
小児科あり	736	104	12%	産婦人科系	3129	384	11%
小児外科なし	949	101	10%	歯科なし	780	78	9%
小児外科あり	94	27	22%	歯科あり	263	50	16%
小児歯科なし	1021	121	11%	矯正歯科なし	1017	122	11%
小児歯科あり	22	7	24%	矯正歯科あり	26	6	19%
小児系	3129	384	11%	歯科口腔外科なし	802	73	8%
外科なし	87	4	4%	歯科口腔外科あり	241	55	19%
外科あり	956	124	11%	歯科系	3129	384	11%
整形外科なし	79	5	6%	精神科なし	671	51	7%
整形外科あり	964	123	11%	精神科あり	372	77	17%
形成外科なし	772	65	8%	神経科なし	929	107	10%
形成外科あり	271	63	19%	神経科あり	114	21	16%
美容外科なし	1020	123	11%	神経内科なし	578	49	8%
美容外科あり	23	5	18%	神経内科あり	465	79	15%
脳神経外科なし	398	30	7%	心療内科なし	941	116	11%
脳神経外科あり	645	98	13%	心療内科あり	102	12	11%
呼吸器外科なし	846	82	9%	精神科系	4172	512	11%
呼吸器外科あり	197	46	19%	アレルギー科なし	937	106	10%
心臓血管外科なし	755	64	8%	アレルギー科あり	106	22	17%
心臓血管外科あり	288	64	18%	リウマチ科なし	822	104	11%
外科系	7301	896	11%	リウマチ科あり	221	24	10%
眼科なし	310	16	5%	放射線科なし	233	9	4%
眼科あり	733	112	13%	放射線科あり	810	119	13%
耳鼻咽喉科なし	371	24	6%	麻酔科なし	317	11	3%
耳鼻咽喉科あり	672	104	13%	麻酔科あり	726	117	14%
皮膚科なし	344	25	7%	リハビリテーション科なし	237	18	7%
皮膚科あり	699	103	13%	リハビリテーション科あり	806	110	12%

表4-1 診療科と図書室の比率

[図書室ありの率 = 図書室あり / (図書室なし + 図書室あり)]

2007 年度病院患者図書館設置状況調査 - 100 床以上の病院における読書環境 -

2008 年 3 月

発行者 東京学芸大学総合教育科学系教育学講座 前田 稔
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4 - 1 - 1
電話 (042) 329- 7111 (代) Email: mmaeda@u - gakugei.ac.jp

印刷所 株式会社山越
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3 丁目 12 番 18 号
電話 03-5413-7778 (代)